

核心評論

2人一組になった受講生が向かい合わせに座る。1人が相手に質問を投げ掛け、会話を展開させるロールプレイングが始まった。講師が設定したのはこんな問いだ。「死ぬのが怖い。どうしたらいいのでしょうか？」

スピリチュアルペインと呼ばれる、人生の終末期など死に直面した際に訪れる心の痛みや恐怖。

「なぜ今、死ななければならぬのか」「自分の人

高齢化に伴う多死社会

生は一体、何だったのか」

「死んだらどうなるか」。

こうした苦痛に向き合い、

相談者をサポートするの

が欧米で発達したスピリ

チュアルケアで、日本でも

学ぶ人が増えた。3月のあ

る日、これに取り組んで

す。名付け親は、宮城県を

中心に在宅緩和ケアに取

り組んだ故岡部健医師。ス

タッフを津波で失った岡

部医師は、その経験や自ら

のがん体験から、大切な人

を失った悲嘆、終末期の現

場に宗教者が必要だと考え

欧米の病院などで活躍する

施設付きの聖職者、チャプ

レンの現代日本版といえ

る。

東北大に臨床宗教師養成

のための実践宗教学寄付講

座が開設され、2012年

臨床宗教師の活動期待

いたのは臨床宗教師フオロ

ーアップ研修の受講生たち

だ。

■ ■ ■ ■ ■

臨床宗教師。布教・伝道

を目的とせず、病院などの

公共的空間で心のケアを中

心に活動する宗教者を指

た。

構想したのは、医療など

と連携できる公共性を帯び

た宗教者の育成。傾聴を基

本としたスピリチュアルケ

アをベースに、相手に求め

られた場合にかぎり読経や

祈りの宗教的ケアを行う。

に仏教やキリスト教、新宗

教などの宗教者による第

1回の修了生が出た。今年

に入ってから全国で支部設立

が相次ぎ、関西や九州など

の支部は活発な動きを見せ

る。

さらに京都市の龍谷大

は、東北大の講座と連携し

4月から臨床宗教師養成プ

ログラムを開始。被災者の

悲嘆ケアから始まった臨床

宗教師は一気に広がり始め

た。背景にあるのは、高齢

化に伴う多死社会到来の認

識の深まりだろう。死をめ

ぐつての心のケアの需要が

増えることは必至だから

だ。

東日本大震災を機に生ま

れた臨床宗教師。政教分離

の原則や宗教の自由に注意

を払いつつ、宗教と社会の

よりよい関係を築く橋渡し

役となることを期待した

い。（共同通信編集委員

西出勇志）